

肝炎の早期発見・早期治療の必要性を伝達
**「知って、肝炎プロジェクト」肝炎対策大使
 小室哲哉氏が大阪府・大阪市を表敬訪問**

「周りの人に言うことが大切。それは同時に周りの人への啓発にもつながる。」と経験に基づく肝炎対策を語る

肝炎は世界で5億人以上が感染していると言われており、健康に対し驚くべき損害をもたらすにも関わらず、いまだに認知度が低く、多くが診断されず治療も施されていない疾患です。肝炎総合対策推進国民運動事業「知って、肝炎プロジェクト」は、2012年より、肝炎に関する知識、肝炎ウイルス検査の必要性を分かりやすく伝え、あらゆる国民が肝炎の正しい知識を持ち、早期発見・早期治療に向けて自ら積極的に行動していくことを目的として実施している活動しております。

この度、厚生労働省 肝炎総合対策推進国民運動事業の「知って、肝炎プロジェクト」（所在地：東京都港区六本木1-6-1 特別参与：杉 良太郎）の肝炎対策大使の小室哲哉氏が2016年11月9日（水）に大阪府・大阪市に表敬訪問を行いました。

当日は、小室哲哉氏の挨拶および、杉特別参与のメッセージの代読からはじまり、早期発見・早期治療の肝炎対策に向けて、ご自身が過去に患ったC型肝炎の経験談とともに、出席者との懇談を行いました。まず、「大阪府、大阪市の皆さまに、杉さんから預かったメッセージをお伝えし、また私自身が数年前に患ったC型肝炎の経験をみなさんと共有していき、また肝炎対策大使に任命された想いや活動をお話できればと思っています。」と、小室氏より表敬訪問の目的が話されました。その後、大阪府 植田浩副知事、大阪市 鍵田剛副市長のご挨拶では、小室氏の表敬訪問に対する感謝の意が伝えられました。懇談では「2013年に検査により、C型肝炎が発覚した時はショックでした。インターフェロン注射の治療を4回受けたところで幸いにも陰性になりましたが、WHOの規定で週1回半年間注射の治療は続けました。治療も大変でしたが副作用に悩まされました。そういった時は周りの人のサポート、周りの人の理解は必要だと感じました。肝炎を患った際には自分から周りの人に言うことが大切だと思います。それは同時に周りの人への啓発にもつながるのではないかと思います」と経験に基づく小室氏の言葉に、参加された方々も深く納得された様子でした。



最後に肝炎対策大使として小室氏から、まだ肝炎検査を受けたことがない方へ「肝炎を恐いと思うことが予防につながります。あまり過信をせずに、定期的にはまず血液検査、また大阪には様々な医療機関が整っている環境ですので、ぜひ利用して、（検査の）時間も掛らないので、未然に防ぐようにしてほしいと思います。」とメッセージをお伝えしました。

今後も当プロジェクトでは、肝炎の知識や検査の必要性を知ってもらうことを目指し、啓発活動を行ってまいります。

【「知って、肝炎プロジェクト」大阪府・大阪市 表敬訪問 概要】

厚生労働省では、肝炎総合対策推進国民運動「知って、肝炎プロジェクト」を立ち上げ、杉良太郎氏を同運動の特別参与に任命し、杉特別参与が芸能界・スポーツ界から大使・スペシャルサポーターを任命して、肝炎対策の普及啓発を行っています。このたび、「知って、肝炎プロジェクト」は、大阪府・大阪市へ表敬訪問を実施。肝炎対策大使の小室哲哉氏が大阪府知事代理 大阪府副知事 植田浩氏、大阪市長代理 副市長 鍵田剛氏を訪問し、「知って、肝炎プロジェクト」推進のメッセージ伝達を行いました。

- 日時 : 平成28年11月9日(水) 15:30~15:50
- 開催場所 : 大阪府庁 特別会議室
- 出席者 : 大阪府知事代理 大阪府副知事 植田 浩 (うへだ ひろし) 氏
大阪市長代理 大阪副市長 鍵田 剛 (かぎた たけし) 氏
「知って、肝炎プロジェクト」肝炎対策大使 小室 哲哉 (こむろ てつや) 氏
大阪府健康医療部 部長 上家 和子 (かみやかずこ) 氏
大阪市健康局長 甲田伸一 (こうだしんいち) 氏
大阪大学医学部附属病院 消化器内科・教授 竹原 徹郎 (たけはら てつお) 氏
大阪医科大学附属病院 消化器内科 講師 朝井 章 (あさい あきら) 氏
関西医科大学総合医療センター副院長 關 壽人 (せき よしひと) 氏
大阪市立大学医学部附属病院 肝胆膵内科・教授 河田 則文 (かわだ のりふみ) 氏
近畿大学 医学部附属病院 消化器内科・講師 上嶋 一臣 (うえしま かずおみ) 氏
大阪府 広報担当副知事 もずやん

【表敬訪問 / 懇談レポート】

植田副府知事より、「平成26年から過去20年間の数字を見ると、肝がんの死亡者数が47都道府県でワースト1位となっています。平成25年はワースト2位でしたが、平成26年にまたワースト1位になってしまいました。府民の皆様にも啓発していくことが大事だと思っています。」とお話しいただきました。小室氏は自身の体験から、繰り返し伝えていたことは「周りの人たちに言うこと」。そういった時は周りの人のサポート、周りの人の理解を得るだけでなく、同時に周りの人への啓発にもつながるという自身の経験に基づいた考えを話しました。また検査の重要性も強く説き、肝炎になってからでは、本当に治療、完治まで時間が掛ってしまいます。まずは血液検査から行い、自分を過信せず未然に防いでほしいという想いを語りました。



「知って、肝炎プロジェクト」とは



このキャンペーンは、平成23年5月16日に策定された肝炎対策基本指針を受け、厚生労働省の肝炎対策助成金事業として開始されました。平成25年度より、肝炎に関する知識や肝炎ウイルス検査の必要性を分かりやすく伝え、あらゆる国民が肝炎への正しい知識を持ち、早期発見・早期治療に向けて自ら積極的に行動していくこと目的とした「肝炎総合対策推進国民運動事業」として啓発活動を致しております。

肝炎とは何か、そしてどのように感染するのか、どのような人に危険性があるのか、そして様々な予防方法と治療法を知ってもらうことを目指します。肝炎は、健康に対し驚くべき損害をもたらすにも関わらず、いまだに認知度が低く、多くが診断されず治療も施されていないという疾患です。世界保健機関

(WHO) は、2010年に世界的レベルでのウイルス性肝炎のまん延防止と患者・感染者に対する差別・偏見の解消や感染予防の推進を図ることを目的として、7月28日を"World Hepatitis Day"(世界肝炎デー)と定め、肝炎に関する啓発活動等の実施を提唱しました。

日本でもこれに呼応した取組として、7月28日を日本肝炎デーと定め、国及び地方公共団体、医療団体や事業主団体等の協力を経て、肝炎の病態や知識、予防、治療に関わる正しい理解が進むよう普及啓発を行うとともに、受診勧奨を推進致します。

また、厚生労働省 肝炎総合対策推進国民運動 特別参与 杉良太郎氏をはじめとする、芸能界・スポーツ界から大使・スペシャルサポーターの方々に肝炎ウイルス検査の認知向上などを目的とした広報活動をお手伝い頂いています。

